

令和 6 年度 自己点検・評価報告書

東北歯科技工専門学校

1. はじめに

本校では、令和 6 年 6 月に学生募集の停止を発表いたしました。これを受けて、教職員一同、学生への教育の質を維持しつつ、今後の再建と募集再開に向けた努力を継続してまいりました。

しかしながら、今後の状況によっては、現 2 年生の卒業をもって閉校となる可能性も否定できない厳しい局面にあります。そのような中で、本年度の自己点検・評価は、「在校生に対してこれまでと同等以上の教育の質を保証する」ことを目的に実施いたしました。

2. 評価の目的と方法

評価の目的は以下の通りです：

- ・ 教育活動の質の継続的な向上
- ・ 閉校の可能性を踏まえた適切な学生対応の実施
- ・ 教職員体制の見直しと改善

評価は、全教職員による自己点検を基本とし、各評価項目について「問題なし」「やや課題あり」「大きな課題あり」の 3 段階で判断しました。

3. 評価結果の概要

評価項目	問題なし	やや課題あり	大きな課題あり
1. 授業・実習が計画通り実施されているか	83.3%	16.7%	—
2. 教育内容・教材の質は維持されているか	100%	—	—
3. 国家試験・資格取得に向けて対策は行われているか	100%	—	—
4. 閉校に関する説明・相談の対応が丁寧に行われているか	16.7%	—	83.3%
5. 学生の心理的ケアへの配慮がなされているか	50%	33.3%	16.7%
6. 教職員体制・運営体制は閉校まで安定しているか	16.7%	33.3%	50%
7. 最終学年としてふさわしい総括がなされているか	33.3%	50%	16.7%

4. 分析と考察

【授業・実習、教育内容、国家試験対策（項目 1～3）】

授業・実習は計画通りに概ね実施されており、教育内容や教材の質、国家試験への対策についても高く評価されました。教職員による努力が反映された結果と考えられます。

【閉校対応と学生支援（項目 4～5）】

閉校に関する説明や相談体制には大きな課題があるとされ、在校生や保護者へのさらなる情報提供や対話の場の確保が急務です。心理的ケアに関しては一定の配慮がなされているものの、改善の余地があります。

【体制とまとめ（項目 6～7）】

教職員体制の維持には困難が見られ、特に閉校を見据えた運営の安定性において大きな課題が指摘されました。また、最終学年としての総括においても「やや課題あり」が過半を占め、学生の学びを総合的に支える体制の整備が求められます。

5. 今後の改善方針

- 閉校または継続の判断に関わらず、在校生への丁寧な情報提供と相談体制の強化
 - 教職員のモチベーション維持と支援体制の構築
 - 学生の心理的ケアを専門機関と連携して拡充
 - 最終学年の教育成果を最大化するための教育プログラムの見直しと充実
-

6. おわりに

本校は、困難な状況下においても、学生一人ひとりの学びと成長を支えるために全力を尽くしてまいります。今回の自己点検・評価結果を真摯に受け止め、今後の教育活動に反映させてまいります。